



1月23日、教育課生涯学習係主催の「茶道教室」をサポートした会の皆さん

仲間とともに  
その34  
いいたて  
茶友会

「30年程前、山津見神社のお祭りで抹茶をいただき、作法を知っていた方がいと感じたのが始まり」。会の代表、長正増夫さん(大久保・外内)は、早速その抹茶を出してくれた故・久米園枝さん(佐須)に茶道を習い始めたそうです。その輪が「いいたて茶友会」の活動につながりました。「規約などない、ゆつたりしたつながりです」。避難後もイベント等の機会でお茶を振る舞うことがあります。この日は茶道教室で、参加者が作法やお点前を体験。「和敬静寂」という言葉と共に心の修養の大切さも伝えました。「練習の機会が今はなかなか」と話す会員の皆さんも、交互にお点前を楽しみました。

活動データ

- 避難前は月に1度、山津見神社に集まりお茶を点て、茶道を学んでいました。
- 現在は、2か月に1回程度、福島市・伊達市・南相馬市など、メンバーの避難先自宅に集まります。



1/16

菊池製作所 河北文化賞を受賞  
操業継続をバネに被災地の復興を牽引

震災当時、村内に営業所と6つの工場を持ち、現在は川内村や南相馬市などでも事業を展開する菊池製作所(本社・東京都八王子市)が、第65回河北文化賞を受賞しました。この賞は河北文化事業団が、東北のために貢献した個人・団体に贈るもの。今年度は推挙を受け

た40の個人・団体から、2名・2団体が受賞しました。仙台市内で開かれた表彰式には、菊池功社長が出席。あいさつに立ち、対策を講じて操業を継続した経緯や、被災地での新規事業について語り、謝意を述べると、会場は大きな拍手に包まれました。



一刀雅彦理事長から表彰状を受け取る菊池社長

川内・二本松・南相馬における展開ができていけるのも村に工場を残すことができたから。村と村民の皆さんに深く感謝しています。また従業員の方があつたからこそだとも思っています。



飯館村の出身でもある菊池功代表取締役社長

表紙

菊池製作所 入社1年目の皆さん

村内で操業を続ける菊池製作所。復興の最前線を照らす笑顔です。隣の記事もご覧ください。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。